

自主防災組織活性化支援事業優良団体 活動事例概要

団体名	常盤地区防災会	設立年月日	平成 18 年 3 月 26 日
代表者名	田坂 勝彦	構成人数	9,733 人
事業概要	<p>当事業を活用し、資機材等を利用して地域の危険(土砂災害・風水害等)に合わせた訓練を 4 回に分けて行う。</p> <p>第 1 回「情報収集・記入訓練」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 停電した想定で実践的な訓練を行う。 ・ 住民主体の常盤防災本部運営訓練を行う。 ・ 被害報告書(仮)を事前に単位自治会から収集し、地図へ被害状況を書き込んでいく。 <p>第 2 回「大雨・洪水に備えた訓練」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今治市防災マップを活用し、浸水地区の確認をするとともに、市が発表する避難情報のとるべき行動について学ぶ。 ・ 簡易水防工法、資機材操作訓練を行い、実災害時に役立つようにする。 <p>第 3 回「初期消火・救出救護訓練」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市街地の地区が訓練を行い、火災発生時に近隣住民の協力で延焼を防ぐことを目的として訓練を行う。 ・ 救命措置や応急手当、担架搬送訓練などを行い、基本的な救命講習を受講した。 <p>第 4 回「土砂災害から身を守る訓練」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 過去に土砂災害が起こった場所に足を運び、現場の状況・改善の様子等を確認する。 ・ 被災した方の講話や県職員からの説明を受け、正しい避難を学習する。 		

事業実施中の写真



ヘッドライトを使い被害状況報告書の内容を地図に書き込んでいく。



今治市防災マップを活用し、浸水想定区域等を学ぶ。



水消火器を使い、消火訓練を行っている様子



過去に土砂災害を経験した方の講話様子

事業完了後の活動予定又は実績

- ・ 単位自治会での継続した訓練を行っている。



ガスパワー発電機

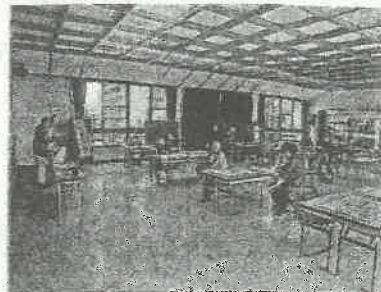
常盤防災だより

41号R2.9

第1回「情報収集・記入訓練」の実施

7月26日(日)午後2時から実施したはじめての訓練は、本来2階の学習室と集会所で行う予定でしたが、新型コロナウイルス対策のため、別館2階の大集会室に変更しました。

常盤防災組織の第1の目標は、皆さんご承知の通り『迅速かつ正確な情報伝達と対応』です。この訓練は防災組織の要となる訓練でした。災害が起きた時の対応は次のとおりです。



1 各自治会長は、災害が起きた時、各自治会に配布している自治会用ファイルの被災情報(地図を含む)用紙に、担当地区の被災状況を書き込み、封入後公民館の防災ポストに投函する。

8地区記入方法の説明



2 被災が少ない防災士、本部役員、単位自治会長(防災員)は公民館に集まり、手分けして常盤の住宅地図(8地区)に記入し、個別の被災状況(数)を一覧表にまとめる。

(地区全体の被災状況を把握)

3 情報班は、被害の大きい自治会の報告書をコピーし、市の災害対策本部に救助を依頼する。即対応ができなくても、常盤の被災報告書を随時本部の箱(常盤自治会持参)に入れ

停電を想定しヘッドライトを使用する。同時に、市の対策本部の情報(給水、野外トイレ、給食...)を持ち帰り、公民館前に掲示する。

今回、1については、各単位自治会長にお願いしました。2は、32の自治会を選んで8つの住宅地図に書き込みました。記入上基本的なことは問題ありませんでしたが、集計方法にひと工夫必要なことがわかりました。3の訓練、今回は未実施です。訓練には次の方々にご協力いただきました。

木山一成(北日吉町) 松田泰幸(南日吉町) 小山 由(南日吉町) 河上和子(鯉池町)
八木千花(南日吉町) 森 会美(中日吉町) 以上防災士

常盤地区32名の防災士の方々に協力要請をしましたが、6名のご協力しか得られず残念でした。今回は、急ぎま下記の方々にお願いし、何とか実施することができました。

十亀宏二(北日吉町) 十亀 裕(北日吉町) 兵頭良紀(常盤町7) 玉井正文(常盤町6)
二宮道幸(常盤町5) 玉井貴夫(常盤町7) 原田道輝(常盤町5) 菅道太郎(北日吉町)

防災士の方々へボランティアのお願い

地域の防災力の維持、向上には防災士の方々の協力は欠かすことはできません。愛媛県では地域の防災力を向上させるために、多額の補助金を出して防災士を養成してきました。その人数は、都道府県の中で第2位を占めています。

防災士の資格は、自治会長の推薦、一部の企業、行政機関の推薦を受ければ受講料が無料になります。(教材費含め1人数万円)資格を取得した方々は、自治体や企業の防災リーダーとしての活躍が期待されています。今治市では、毎年、その地区の自治会長に防災士

の資格取得者の名簿が送られてきます。

常盤防災会では、災害時はもちろん年2回程度の防災訓練に、防災士の方々の協力がいただけることを想定して組織づくりを進めてきました。

今年度は、補助金70万円の最大枠を戴くために、特別に4回の防災訓練を企画しています。ご多忙中とは思いますが万難を排してご協力よろしくお願いします。

＜常盤の防災士資格取得について＞

昨年に引き続き今年度も、自治会長推薦による防災士資格取得者募集が来ています。割り当て人数は2名です。募集締め切り一次は9/6(水)二次は10/7(水)です。事業実施日は12/12(土)13(日)、実施場所は「愛らんど今治」です。推薦になれば参加費用無料になります。お問い合わせは常盤公民館をお願いします。

第2回防災訓練「大雨・洪水に備えた訓練」

本来であれば、防災訓練延期も考慮すべきですが、補助金をいただいたので、報告書を提出しなければなりません。コロナ対策に配慮しながら実施したいと考えています。今回は、学習講座を受講し、訓練は見学となっています。学習班(50分)と訓練班(50分)に分かれ、途中交代します。今回の研修は泉川地区、鯉池地区、榎地区の自治会長に2名ずつの参加をお願いしています。会員が50名以上の自治会は人数を増やしてください。

日時 令和2年9月6日(日)午後2時～4時

場所 鯉池集会所、鯉池公園広場 全体会はないので、最初の受講場所で受付検温とマスク着用にご協力ください



＜学習班＞

場所 鯉池集会所 16の榎地区自治会代表者が受講

学習内容 今治市発行の防災マップをテキストに今治の大雨・洪水について学習する。

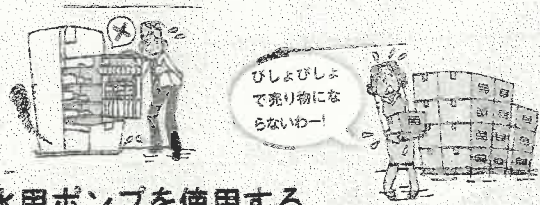
- 1 今治市の洪水ハザードマップを見る
- 2 河川の氾濫発生情報
- 3 注意報・警報の発表基準
- 4 避難情報の名称変更
- 5 要支援者の避難支援
- 6 家屋の被害を抑える

＜訓練班＞

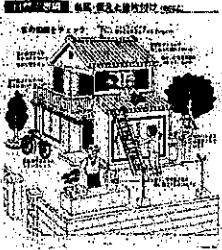
場所 鯉池公園広場 14の鯉池地区代表者 13の泉川代表者が受講

下記の3班に分かれて、15分程度ずつ受講します。マスク着用

- 1 家庭でできる簡易水防工法
床下浸水を防ぐためのいくつかの事例の紹介
- 2 給水土嚢づくり
土砂を使わない水土嚢づくりの紹介
- 3 浸水に備え、水中ポンプ使用訓練
泉川でガス発電機を使い、新しく購入した排水用ポンプを使用する。



※参加者数により、当日受講場所の変更もあります。ご理解とご協力をお願いします。



常盤防災だより

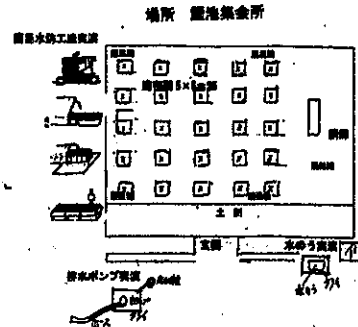
42号R10.1

第2回「大雨・洪水に備えた訓練」の実施

今回は鯉池地区(14)泉川地区(9)榎地区(17)の自治会に参加要請をしました。コロナ対策のため予定していた参加人数を半数に抑えました。参加されない自治会もありましたが、役員を含めて40名で、鯉池集会所を会場に実施しました。

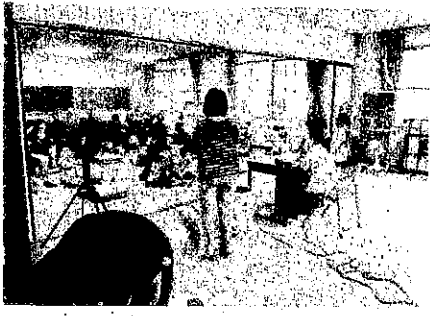
大型台風10号が接近しつつあった9月6日、朝の天気予報では降水確率0%でした。朝の準備中は曇り空で心地よい風も吹いていました。ところが午後2時開始20分前から雨が降り始め、野外で予定していた3つの研修ができなくなりました。

急ぎよ鯉池集会所内の学習班に合流しました。屋内は三密を避けても、50名程度研修できる場があったので助かりました。室内で1時間の研修を終えたころ、小雨になり、屋外の実演場所で、20分程度担当の防災士の説明を聞き、研修を終えました。



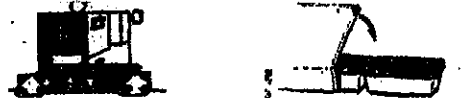
1 学習班の講話内容

今治市発行の防災マップをテキストに、洪水についての基礎知識、洪水ハザードマップを活用して、浸水地域、土砂災害危険個所の確認、改正された避難情報の説明等がありました。



ベテラン防災士の河上和子さんを中心に、八木千花さん、森恵美さんに講座を担当していただきました。事例を挙げての説明は好評でした。

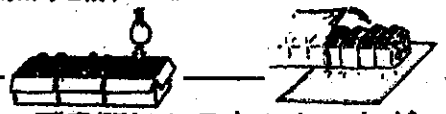
止水堰による工法 プランターとブルーシート



2 外での実演と説明

本来は3カ所に分かれ、50分かけて、説明実演する予定でしたが、雨が降っていたため全体で20分程度の説明に終わりました。簡易水防工法では、4つの工法、排水ポンプの実演、吸水土嚢は、給水前土嚢(400g)と3~5分水に浸した膨張後の水嚢(20kg)を展示説明しました。講師は防災士の村上オーさんと小山由さんをお願いしました。簡潔で分かりやすい説明でした。

簡易水防工法 ポリタンクとブルーシート



3 受講者の感想

- ① 今まで、市の防災マップを開いたことなかったが、ハザードマップはとても参考になった。
- ② 講師の方の具体例を挙げての説明がよかった。
簡易ヘルメットの作り方、過去の決壊場所、危険個所、サイレンの意味等々
- ③ 避難について、最新情報を把握できてよかった。
- ④ テレビを見て避難所に行けば、毛布や食料があると思っていたが、何もないので、自分で準備して持参しなければならないことが分かった。避難準備についてもっと真剣に取り組まないといけないと思った。



- ⑤ 避難所は、自治会が予定している場所はすぐには開かれないことを知った。公民館、常盤小学校、日吉中学校など市の施設から開設されることを知った。
- ⑥ 浸水対策には色々工法があることが分かった。自分の家でも考えたい。
- ⑦ 床下浸水対策の資料で、キッチンやトイレの逆流防止で、以前神戸の娘宅で、道路が川のようになり、浸水すると台所、風呂、トイレの排水坑から汚水が噴き出て困ったことを思い出しました。家庭用のゴミ袋やレジ袋に水をいれた水嚢を作り塞げばよいことがわかりました。



第3回 防災訓練「初期消火・救出救護訓練」

体育館と運動場の2か所に分かれ、50分ずつ研修した後、交代します。運動場の消火器使用訓練、バケツリレー訓練は短時間で終了する恐れがあります。参加人数により合同で実施することも考えています。また、新型コロナウイルスに配慮した訓練方法も検討中です。その場で変更することがあると思いますが、ご理解とご協力をお願いします。



日時 令和2年 10月18日(日) 14時 ~ 16時

場所 常盤小学校 運動場と体育館 全体会はおこなわないので、受付をすますとそれぞれの場所へ移動してください。マスク着用にご協力ください。

- 1班 バケツリレー訓練 25分
場所 運動場 10の日吉本町地区代表者 各自治会2名と戸数50戸ごとに1名追加で参加してください。
- 2班 消火器使用訓練 25分
場所 運動場 9つの常盤町上地区の代表者 各自治会2名と戸数50戸ごとに1名追加で参加してください。

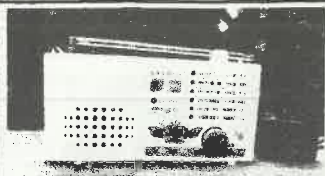


※参加人数が少なければ2,3班は合同で実施します。

- 3班 救出・救護訓練 50分
場所 体育館 13の常盤町下地区自治会の代表者 各自治会2名と戸数50戸ごとに1名追加で参加してください。
- ① 担架使用訓練
2つの担架を使っでの使用方法の練習と簡易な担架の作り方説明
 - ② 止血法と応急手当等
2つの訓練を50分以内に行います。時間配分は当日お知らせします。

<感謝>

防災訓練を実施するにあたり、市の防災危機管理課には大変お世話になっています。情報収集記入訓練の16枚の大型住宅地図コピー、研修用の60冊の今治市防災マップの寄贈その他70万円の補助金申請、公園への防災倉庫設置の実現、いつも常盤の防災組織づくりに適切な指導と助言をいただいています。



常盤防災だより

43号R2.12.1

緊急告知ラジオ

各自治会へ緊急告知ラジオの配布を！

常盤地区自治会長 田坂 勝彦

初冬の候、皆様にはご健勝にお過ごしのことと存じます。平素は自治会活動にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。本年度は、新型コロナウイルスのため、総会の他、運動会、盆踊り大会、文化祭など皆様が楽しみにしている諸行事がすべて中止になりました。その状況下で、県や市から補助金をいただいている関係で、感染防止対策をとりながら防災訓練を4回実施しました。ご参加いただいた皆様方のご協力により所期の目的を達成することができました。関係者の皆様にお礼申し上げます。

さて、4月に中止となった総会の費用を有効に使いたいと考え「今治市緊急告知ラジオ」を購入することにしました。このラジオは、今治市が緊急防災情報を伝達するための手段として市民に販売しています。すでに購入されている方もおられると思いますが、市の防災情報が各自治会内に確実に伝わることを目的としています。自治会長が交代する時には、すでに配布している自治会用ファイルと共に次期会長に引き継いでください。

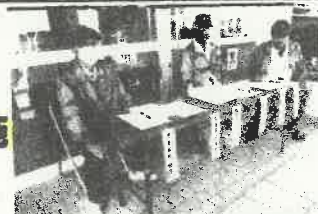
本年度の報告会は、コロナ対策を兼ねて12月11日（金）午後7時から常盤小学校体育館で開催します。そこで、告知ラジオの配布、購入済みの4つの防災倉庫の備品内容の紹介、備品貸し方法等についてご意見を伺いたいと思っています。単位自治会長（代理可）は必ずご出席ください。

※ 防災費、防災募金(本年度で最後)未納の自治会は納入をお願いします。



バケツリレー

第3回「初期消火・救出救護訓練」の実施



今回は日吉本町地区（10）常盤町上地区（9）常盤町下地区（13）の自治会に参加要請をしました。参加されていない自治会もありましたが、自治会役員を含め45名で、常盤小学校運動場、体育館で実施しました。

今回は、市政出前講座を活用させていただきました。講師として、市消防本部より4名の消防士をお招きしました。

<訓練要領>

A 受付を済ますと最初の訓練場所の運動場へ 消防士の指導のもと

バケツリレー（25分）日吉本町地区、 消火器使用訓練（25分）常盤町上地区時間が来れば交代する。

B 受付を済ますと最初の訓練場所の体育館へ 河上和子（防災士）と消防士の指導のもと

体育館…病気やけがの応急手当（25分）常盤町下地区半数 担架使用訓練（25分）常盤町下地区半数、時間がくれば交代する。

○運動場、体育館ともに 14:00～14:50

運動場のグループは体育館へ、体育館のグループは運動場へ 10分間で移動

○運動場、体育館ともに 15:00～15:50 現地解散



1 バケツリレー訓練

始めに、消火要領の説明後、水槽から消火用バケツ（20個）で給水、それを15m先の「火的的」へリレーをして、火点めがけて消火活動をする。火点に水を掛けた後のからバケツは給水位置までリレーし、再度給水を繰り返す。最初は一列で、次はジグザクで効率よい運搬方法を学んだ。



2 消火器使用訓練

始めに、消火器の取り扱いを説明後、水消火器で示範する。火勢が強くなった時、逃げることができる方向を確認した後、安全ピンを抜く。ホースの先をしっかりとつかみ、ハンドルをつよく握り、火点めがけて消火活動を行う。その時、炎を狙うのではなく下の火元を狙う。炎が弱くなれば、さらに近寄って消火活動を行う。

3 担架搬送訓練

まず担架搬送法の基本を学ぶ。傷病者の足側を進行方向に向ける。階段の傾斜のある場所を移動するときは、常に傷病者の頭側が高くなるように、上りは頭側を進行方向に、下りは足側を進行方向に向け搬送する。その他、毛布や竹を利用した搬送法、1名で背後から搬送する方法を学んだ。



4 救護訓練

止血法として直接圧迫止血法、傷に対する応急手当、や足の骨折に対する応急手当を学んだ。三角巾を使わずに、女性用ストッキング、レジ袋、新聞、雑誌を使った応急手当方法には感心させられた。

《 訓練参加者の感想 》

- ①初期消火のバケツリレーはみんなで協力して楽しくできた。
- ②消火器の使用は初めてで不安でしたが、実際にやらせていただいてよかった。いざという時、あわてずにできそう。
- ③毛布と竹棒を使った応急担架の作り方、重い実物大の人形を乗せた担架運送法、実際にやらせてもらってよかった。
- ④出欠に対する直接圧迫止血法や骨折に対する応急手当の方法を教えてもらってよかった。特にレジ袋、ストッキング、タオル、ナイロン袋、ダンボール、古新聞など身近なものを使った応急手当方法に驚いた。
- ⑤家で何もせずにいるより、出てきて防災訓練に参加して本当に良かった。（高齢の方）
- ⑥色々勉強になった、将来役立ちそうだ。
- ⑦消防士さんや防災士さんがよくわかるように説明していただいてありがたかった。一部の方の感想ですが、おおむね好評でした。皆様も防災訓練には積極的にご参加ください。



常盤防災だより



44号R3,1,1

防災訓練参加協力のお礼

土嚢づくり訓練

常盤地区自治会長 田坂 勝彦

謹んで新春のお喜びを申し上げます。会員の皆様には、昨年は、新型コロナウイルス感染症が終息しない中での防災訓練でしたが、皆様のご理解とご協力を賜り無事終了することができました。ありがとうございました。

さて、昨年の防災訓練は、補助金の関係から、自治会役員が主動して実施しました。4回の訓練を通じていくつかの教訓を得ることができました。

- 自治会役員も高齢化し、役員主催の訓練は難しくなってきました。つきましては、今後は常盤地区の防災士や消防団の方々が中核になり三者が一体となって訓練に取り組むことが肝要だと思えます。
- 3回目の訓練では、市の消防本署から消防士をお招きしましたが、当地の防災士や消防団OBの方々の中に、講師にふさわしい方々がおられました。災害時に即リーダーとして活躍していただくために、できるだけ自前での防災訓練ができればと思います。
- 今回はテキストとして「**今治市防災マップ**」を2つの防災訓練で活用しました。その中のハザードマップには、洪水や土砂災害に対する、市の指針が明確に示されています。すべての家庭に配布されているはずですが、開けたことがない、どこにあるかわからないといった声をよく聞きました。災害時はもちろん、今後も防災訓練のテキストとして活用するので一定場所に保管しておいてください。
- 人数制限のため2、3回目は単位自治会長中心の訓練でしたが、4回目の「土砂災害から身を守る」訓練では、山方、宮下地区全戸に参加依頼をしました。身近なことだけに山方地区はほぼすべての自治会から複数名の参加がありました。アンケートを見るとすべての方が参加してよかったと好評でした。今後は、すべての自治会員が自由に参加できる防災訓練にしたいと思いました。
- 近年は自治会長輪番制の傾向が増大し、昨年は、88の単位自治会中66の会長が交代しています。故に自治会本部からの要請等が徹底しにくくなっています。こうした中で、自治会長中心の防災組織の在り方を見直す必要に迫られています。

第4回「土砂災害から身を守る訓練」の実施

防災訓練当日は温かく秋晴れの好天に恵まれました。今回は山方地区(9)と宮下地区(7)の全戸に参加依頼をしました。特に山方地区は関心が高くほぼすべての自治会から41名の方々が参加し、防災士や役員を含めて75名が下記の訓練を実施しました。



市の防災マップを活用

<訓練要領>

最初は学習班(山方地区)と土嚢づくり班(宮下地区)に分かれ、時間が来れば交代し、その後は4つの野外防災学習に自由参加。その後、希望者は土砂災害現場に行き、二人の講師の方々の実体験の話聞いた。

1 学習班(25分)

(1) 土砂災害について学ぶ

「今治市防災マップ」を活用して、がけ崩れ、土石流、地滑りの特徴と災害の起こる

前兆現象について学ぶ。全国の危険箇所は約 67 万件、S57~H30 の土砂災害発生のは平均は 1087 件、H30 は 3459 件、P1 は 1996 件と近年急増。その 6, 7 割はがけ崩れ。

(1) 地図を使って、山方、宮下地区の危険箇所の確認

(2) 私たちのとるべき対策

・避難経路、避難場所の確認 ・非常持ち出しリュックの準備他



土嚢制作器での土嚢づくり

野外防災学習班

(1) 土嚢づくりの方法 (25分)

災害用ドローン

阿曾沼氏の指導のもと、新しく購入した土嚢制作器を使って土嚢づくり

(2) 大型タイヤを利用した水土嚢づくり (10分)

水土嚢の紹介

(3) 浸水に備えた水中ポンプの使用法 (10分)

床下浸水対策用のプリント配布

(4) 山方防災倉庫の備品の紹介と使用法 (10分)

『自分の地域は 自分たちで守る』という指針に基づき

山方、宮下地区の大型住宅地図、災害危険地域掲載の地図、

常盤防災の腕章 20 本、備品貸し出し簿等を備え、倉庫

のカギも地域の責任者に渡し管理を依頼



山方地区の防災倉庫

3 観音寺裏山の土砂災害現場の視察 (30分)

大雨による土砂災害及び地震災害について、越智氏、三浦氏による講話 (各 15 分) また、阿曾沼氏による災害用ドローンのパフォーマンス

<受講者の感想>

1 市の防災マップを見ながら、土砂災害の種類や前触れを学んだ。特に、この地区にあるがけ崩れについてよく理解できた。

2 土嚢づくりを体験させてもらってよかった。ホームセンターで長持ちする土嚢袋を購入しようと思う。

3 手軽にできる水土嚢の作り方と使い方を初めて知った

4 防災倉庫の備品の紹介と使い方がよく分かった。

5 山方地区のがけ崩れの現場へ行って怖かった。被災者の方のお話を聞いて、色々考えさせられた。

6 防災に関する話や体験、現地見学でより関心が深まった。年に 1 回はして欲しい。



土砂災害現場での説明

防災募金、防災費協力のお願い



この 4 年間 (募金は 3 年間) で協力いただいた会員は防災募金 600 円と防災費 400 円で合計 1,000 円負担していただきました。募金は、すべて防災備品購入、防災費は、全戸への防災だより (43 号)、常盤の防災 2018 自治会編、家庭編の作成、すべての自治会へ引継ぎ用自治会ファイルを作成、自治会用本部の備品等に使用していただきました。

10 月末現在で防災募金に協力いただいた自治会は 47 (昨年 50)、防災費 60 (昨年 74) です。

募金、防災費未納の自治会は協力をお願いします。今後 2 か所防災倉庫の設置を計画しています。募金未納の 38 の自治会の皆様のご理解とご協力をお願いします。